

平成30年度 社会教育委員の会

審 議 報 告

研究テーマ

「公民館の役割について～今、何が求められているのか～」

川西市社会教育委員の会

議 長	野 崎 洋 司
副議長	住 友 顕
委 員	田 中 里 香
委 員	米 田 公 子
委 員	細 見 幸 己
委 員	川 口 厳 悟
委 員	塩 谷 恵美子
委 員	玉 邑 一 夫
委 員	黒 山 郁 子
委 員	丸 山 浩 志

平成31年3月31日

川西市社会教育委員の会 審議報告（1年次）

（年間研究テーマ）

「公民館の役割について ～今、何が求められているのか～」

1. 研究テーマ設定の趣旨

住宅都市として発展してきた本市においても人口が減少に転じ、高齢化が進行している。一方で、都市としての利便性と豊かな自然環境が共存する住環境を維持、発展させることで、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりをすすめたい。

これまで私たちが経験したことのない人口減少社会に対応するためには、従来とは異なる発想による新たな地域づくりが求められる。また、「人生100年時代」が構想される中、シニア世代の新たな生き方を展望した生涯学習社会の構築が求められる。

国では平成30年3月2日に中央教育審議会に対して「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」諮問があった。（答申は同年12月21日に出された。）諮問では、社会教育施設の役割等を含め、人口減少社会において、関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動の在り方を中心に、今後の社会教育の振興方策について検討することが求められた。

本市の社会教育委員の会においても、平成29年度審議報告「社会教育の再生 ～気楽に行ける公民館～」(平成30年3月12日)において報告した、公民館を核とした社会教育推進のための具体的方策を基本としながら、今後の社会において公民館に求められる役割について検討することとした。

2. 平成 29 年度審議報告「4 つの提言」の検証

平成29年度審議報告は平成28・29年度の2カ年にわたる審議の上、報告書としてまとめられたものである。その中で社会教育の再生に向けて公民館の果たすべき役割として4つの提言が示された。以下にそれぞれの提言を参考にしながら、今年度の研究テーマ「公民館の役割について ~今、何が求められているのか~」について出された主な意見をまとめた。

以下、平成 29 年度審議報告及び平成 30 年度の主な意見

提言1 川西市公民館のあるべき姿は『気楽に行ける公民館』である

公民館は出会いの場である

公民館の雰囲気づくりが重要である

平成 30 年度の主な意見

目的や理由なく、公民館に行く人は少ないように思う。大人達は、サークル活動や行政センターとして証明書を受け取りに行く、子ども達は暑い日に涼しい場所で勉強できる、友達と待ち合わせて遊べるなどの理由があって公民館を訪れている。出会いの場となり得る仕掛けが無い状況で、人が集う場とすることは難しいため、いま以上に市民のみなさんに訪れていただくための工夫を公民館、学校、地域が連携し、考えていければいいと思う。

上記意見の具体例として、出会いの場をつくるためには、一息つけて、ちょっとした会話ができる、ほっとするような場所があるといいと思う。イメージとしては久代地区で行っているふれあいカフェ久代¹などを参考にしてはどうか。

¹ふれあいカフェ久代：久代小学校区コミュニティ推進協議会の福祉部が市の補助金の一部を活用し、久代会館にて実施しているカフェ。毎週木曜日13時から15時30分の時間、100円でコーヒーを提供し、地域の方が交流できる空間をつくるための取組を実施している。（同伴の小学生の飲み物は無料）

川西南公民館では、職員の意識の統一を図るため「経営方針」を定めていて、そのキーワードは和顔愛語（わけんあいご）²であると館長がお話されていた。市民と市役所との繋ぎの場である公民館として、市民に寄り添う基本姿勢として、笑顔、やさしい言葉遣いを大切にされていると伺った。これは職員1人1人の自覚や協力して和顔愛語を実践していこう、というような職場の雰囲気が必要となるもので、今後も継続して実践をしていただきたい点だと思う。またこれには、館長のリーダーシップやマネジメント力が大きく影響すると思うので、各公民館へ県等が行う研修への積極的な参加について、情報提供を行っていただきたい。

²和顔愛語（わけんあいご・わがんあいご）：和やかで温かな顔つきや言葉つき。

穏やかで、親しみやすい振る舞いのこと。(三省堂 新明解四字熟語辞典参照)

公民館の役割は、学びの場であるとともにつながれる場であると思う。地域のつながりを大事にすることが、突然起こり得る自然災害に対しても、対処できるような絆を結ぶことにつながる。各中学校区に公民館があるという川西市の強みを活かし、災害時の拠点として公民館を活用できればいいと思う。

防災拠点としての公民館の活用について、現在、川西市の公民館は第一避難場所として災害時に避難所が開設されているため、防災倉庫、備蓄があり一時的な避難場所としての機能を有していると認識している。普段から気楽に行ける施設として、地域住民と繋がっていると、いざという時に慌てずに避難できることに繋がると思う。

防災訓練等に関して、川西市でも学校単位、コミュニティ単位での活動は各団体を中心に実施していただいていると思う。ただ、それが線になって、面になってと連携して実施することは、十分にできているとは言い切れない。公民館は組織に属していなくても行くことができる、参加することができるという強みを持っている施設なので、その利点を活用することができる方法について、他市の状況を参考にしながら、今後取り組んでいくこともできるのではないかと。

提言2 公民館は”子どもの居場所づくり”に取り組む

フリースペースの提供
部活動に代わる活動機会の提供
不登校の子どもたちの居場所づくり

平成30年度の主な意見

自身の子育ての経験から子育て中の保護者の方はみんな少し、息抜きしたいと思う時があると思う。子育て世代の保護者の方がリフレッシュできる時間として、公民館講座を受講する少しの間、子どもを預かってもらえるシステムがあれば、利用者の幅が広がると思う。

本市の場合は各公民館が独立した館として、業務を積み重ねてこられた。その流れで考えると学校との連携という部分はもう少し連携できる部分もあるのではないかと印象がある。これからは学校も含めて、どのように学習との融合の部分、もしくは教師の働き方改革の部分で関わっていけるかが、1つの議論のテーマだと思う。

部活動に代わる活動機会の提供については、人とお金の問題が大きい。公民館に小中学生を受け入れていただければありがたいという気持ちがあるが、公民館に受け入れることのできる体制があるのか、いまの職員状況で対応できるのかという難しい状況があるといえる。ただ既に、学校も限界が来ているので、持続可能な体制を作っていくために、公民館へお願いできることから連携していく、そんな調整ができればと思う。そのための職員配置について、配慮をお願いしたい。

例えば、夏休みなど長期休業中の部活動を公民館の事業と連携していくことはできないだろうか。小学校区、中学校区だと分けるのではなく、川西市全体でスポーツがしたい、芸術活動をしたいという子ども達を受け入れてもらえるような場所、指導者が整えられれば子ども達にとって、いい環境だと思う。

学校への行きづらさを感じている子ども達が、まずは自分の意思で家から出るために、公民館の図書室等を活用できればと思う。また、子ども達が公民館に行ってくると言ってお出かけすることが、保護者にとっても安心して送り出せる場になればいいと思う。ただ、提言1でも意見が出たように、理由なく公民館に来ることは難しいため、指導者の配置など、子ども達が来るための工夫が必要となる。そのための仕掛けについては、公民館職員に丸投げするのではなく、市全体の事業として取り組むべき課題にするべきである。

提言3 公民館は高齢者の「いきがづくり」に取り組む

高齢者の「いきがづくり」の視点を持つ
登録グループの育成
高齢者の「たまり場」を創出する
行政センター機能を生かした高齢者の見守り

平成30年度の主な意見

川西市は他市と比較しても元気な高齢者の方が多いと思う。だからこそ、労働年齢が上がってきているという社会情勢の変化などから、働いておられる方が多くグループ活動等に積極的に参加できない状況があるように感じる。

川西市には高齢者大学りんどう学園、生涯学習短期大学レフネックという2つの事業がある。以前はこれらの学習を修了された方々が自分達で登録グループを立ち上げる傾向があったが、現在は自らグループを立ち上げるという積極的な行動は少なくなってきた。そのため、登録グループの設置要件等を緩和するなど、公民館側が現状に合わせた制度変更を行っている。現状に合わせた柔軟な対応は評価されるべき点である。ただし、公民館を活性化するためにも、今後社会状況に合わせた運営方法の工夫が求められる。

核家族化、高齢世帯の増加、近所付き合いの希薄化など、ますます孤独になりがちな社会になるといわれている。普段、話す相手もおらず、自宅とスーパーの往復、テレビだけが頼りという高齢者の方もおられる。公民館に少し立ち寄って、一息つけて、ちょっとした会話ができるたまり場が必要だと思う。(提言1、2の出会いの場のイメージと同様)。

提言4 公民館は積極的な情報発信に取り組む

ホームページによる情報発信
紙媒体の充実

平成30年度の主な意見

伊丹市の図書館は「ことば蔵」という名前であり、地域の方が来たくするような、親しみがもてるような情報発信をされている印象を受けた。川西市においても、そういう工夫ができないだろうか。

市民目線から考えると、公民館はなにをしている施設なのか、なにができる施設なのか、まだまだ分からない部分がある。分からないという点から、行きづらい館のように感じている方もいると思う。ただ、公民館についてイメージを持っていない人はPR方法によって、ちょっと立ち寄ってみようかという気持ちになると思う。

ホームページから情報が発信できる環境が整っているのに、なかなか更新がされず、講座の案内が出たら、そのままというような状況はよくないと思う。PRは大切なところだと思うので、もし、情報発信についてホームページの作成に精通した職員がいないということであれば、市の広報担当が作成しているホームページの作成マニュアルを各館へ設置することや定期的に行われている研修会に、職員が積極的に参加できる状況をつくるなどの対策が必要だと思う。

地域との連携、学校との連携について各公民館はどのような発信を行っているのかわかっていないところがある。公民館によっては地区の小学校にチラシを提供しているところもあると聞いているが、全ての公民館が実践できているかについては不明なところもあるので、公民館長会において、各公民館の広報のやり方についての情報共有を行い、良い取組をしている公民館があれば、他の公民館でも実施していければいいと思う。

情報発信は公民館講座だけではなく、登録グループの活動のPRも必要であると

いえる。登録グループも高齢化していき、人数も減っているという状況があると思うので、登録グループのPRも兼ねて活動紹介をできればいいのではないかと³

各公民館で行っている、秋の文化祭は各登録グループの成果発表の場でもある。1年間活動された内容を拝見すると、感心する点が多々あるので、公民館講座の講師を登録グループの方々にお問い合わせできれば、いい講座ができるのではないかと思う。³講座を実施することで、各グループのPRの場として活用していただきたい。

³平成31年度公民館講座にて、川西南公民館は登録グループの活動体験会の実施を、明峰公民館では、登録グループの方を講師に招き、夏休み子ども絵画教室の実施を予定している。

提言に関連しない、追加意見

社会教育の所管部署が一手に市民への学習活動を行うという時代は終わり、子育て支援、高齢福祉などについては各部局が事業を実施している状況がある。いま、公民館ですべきこと、できることの取捨選択が必要だと思う。その中で公民館に求められている役割については、地域教育が1つのキーワードになると思う。

社会教育委員の会においても、公民館の本当の課題は何なのか、公民館自身がいまこれに1番困っているということがしっかり把握できていない。この課題について把握するための研究が必要だと思う。

館に人を集めるという点では、どこにターゲットを絞って行政サービスを提供していくかが大事といわれているが、公民館の場合は利用者の幅が広く、0歳から高齢者まで利用できる施設のため、ターゲットを絞り切ることが難しい。ただし、例えば子育て関係の施設等と連携し、公民館以外でも受け皿が確保できれば、公民館利用のターゲットは高齢者に絞るということも考えられるのではないかと。そのために、他の部署がどのような支援を行っているか、情報共有をすることが大切だと思う。

中学校に入ると部活動がある。公民館は、部活が終わった後の時間はもう閉まっっていて、土日もやっていないというところから、つつい疎遠になってしまう面もあると思う。いまの職員体制では厳しいと思うが、開館時間の調整ができればより使いやすい施設になるように思う。

施設内の環境整備など、敷地の広い公民館であれば春から夏の時期に、どんどん雑草が生えてくる。そういう施設面の花壇整備も公民館職員が行っているが、老

人会に有料ボランティアというかたちで、協力をいただければ、地域と公民館が繋がると思う。

3. 本市における公民館活動

(1) 概要と特徴

市内すべての中学校区に公民館が設置されている。(川西公民館、川西南公民館、明峰公民館、多田公民館、緑台公民館、けやき坂公民館、清和台公民館、東谷公民館、北陵公民館、黒川公民館)

中央館と分館という関係ではなく、10館すべてが独立館として位置付けられている。

本市の社会教育委員の会は、公民館運営審議会としての機能も有している。

各公民館の図書室においては、所蔵の本を閲覧、借用できるほか、黒川公民館以外の図書室は、中央図書館とシステムが繋がっており、中央図書館所蔵の本を予約、受け取りが可能。

公民館登録グループが各館に登録されており、絵画、音楽、茶華道、語学、ダンス、勉強会など公民館の部屋を借りて、様々な活動を実施。

公民館講座としては、前期後期に分けられ、前期が70講座延べ開催数266回、後期が67講座延べ開催数111回を開催、年間で延べ137講座、延べ377回の講座を開催している。また川西市独自の取組として、そのうちの17講座を「川西まちづくり講座」とし、川西市の豊かな自然、歴史、文化、産業、地域の特性などを学んで、わがまち川西に誇りと愛着を持っていただけることを目的としている。

川西公民館、黒川公民館を除き、8館は行政センターを併設しており、公民館職員は行政センター業務を兼務している。また、公民館職員の大半が非常勤職員であり、全館とも社会教育主事の配置もされていない。

行政センターを併設していることから、来館者数は単独の公民館よりも多く、地域の交流施設としての役割も果たしている。また、災害時における防災拠点としての機能も有しており、市民の安全・安心のための施設となっている。

中央公民館は、平成30年8月末で業務を終了し、同年9月25日に複合施設として新たにオープンしたキセラ川西プラザ3階に「川西公民館」が開館。

4．最終報告書作成に向けた検討課題

(1) 利用者の増に向けた取り組み方策

交流人口の増加をめざし、地域内住民はもとより、地域以外の住民の利用を促進するための事業の実施や情報発信を行う。

(2) 地域防災拠点としての機能強化

高齢化の進行に伴い独居世帯の継続的な増加が見込まれる中、自然災害時における避難所としての施設機能の整備・強化に加えて、日常的な防災・減災に向けての訓練・学習活動の実施が求められる。

(3) 運営体制の見直し

各公民館は、交通の利便性の高い地域、住宅地域、中山間地域など異なる地域性を有しており、交流人口の増加を志向しつつ新しいまちづくりを進めるうえでは従来の発想にとらわれない公民館運営が必要となる。住民どうしの相互交流の促進に加えて、外国人を含む他地域の人との交流を志向するうえで、質の高い文化事業の実施、観光や農業振興など産業振興の分野にもチャレンジしていけるような公民館の運営形態が構想されてよいと考える。

情報発信について精通した職員がいないのであれば、職員に向けた研修機会の充実、積極的な研修への参加の案内等の対策が必要である。

(4) 社会教育に関する専門性を有するスタッフ体制の構築

新たな地域づくりを進める上で、地域課題を主題とする学習活動の企画・実施、地域団体の育成や相互交流の促進、ボランティア活動の育成・推進、学校・園との連携などを専門的に担う職員や地域コーディネーターの存在が不可欠である。

教育委員会職員はもとより、一般行政職員について社会教育に関する専門的知識と力量を有する人材の採用・育成（社会教育主事や社会教育士など）を計画的に実施し、「地域課題解決学習」など学習機会の提供を積極的に実施する力量を有することが期待される。